３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模

midorinodam.jp

No.444-445
嵐山の森、完成間近の間伐材仮置き場

【定例報告】長福寺・知足の森

今回も中高生で広葉樹林のボサ刈りを続けています。過ごしやすい季節ということもあり、さして不満も出なかったため、終日広葉樹林で活動することができました。この森での活動も3年目を迎え初年度の斜面、昨年冬までに作業した斜面、今年取り組んでいる斜面と3種類の斜面があります。今取り組んでいる斜面は道路から直接見える場所なので通りがかりの方からも活動に成果がご覧いただけるのではないかと子どもたちもたのしみにしています。初年度に間伐、除伐、萌芽更新の枝を減らした斜面はかなり日光が入り下草の広がる明るい雑木林になっています。それを横目に昨年、今年、と取り組んでいる斜面もこう明るくなるに違いないと活動後の振り返りをみなで行い、これからの活動の決意を新たにしました。　　宮村　連理（本会、副代表理事）

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。

【定例活動報告】小原本陣の森

初夏の小原の森

小原の活動では５月初旬に手入れ以外で竹林整備も行い、収穫物もご覧の通り

今月の定例活動は川田浩氏、角田さん、二藤君、二藤君の友人、小林、二藤君に入沢の進行状況を説明してもらい、次回樹齢100年位のスギ大木（欠頂木）の伐採の仕方を研究する。その後、川田、角田、小林は小原の畑に行き、石井氏と合流。ナス、トマトの植付を行った。大分育った麦の身を鳥がつつくので、鳥が侵入しないよう麦全体に網を掛けた。計算違いもあり若干小さめだが工夫を凝らし何とか終えた。その工夫とは、網が足りない一部の麦を完全に剥き出した状態にしてそこを鳥専用の餌場にして、鳥と人の共存というテーマで収めた。後日調査すると、餌場の麦は食べられていたが、おとりの役目が効いたか。他への侵入は防御されている様だった。中途半端に作業を終えないで良かったと思った。その後、嵐山の基地に向かい、資材置き場の棟木の切断と、次回の小原の土留めに使う杭を作った。７月の活動予定をきくと、いよいよジャガイモやトマトの収穫が始まるので楽しみです。小林　照夫（本会、理事）

【定例活動報告】相模湖・嵐山の森

この日は暑い中作業を行いました。まずはフォレストノバの報告からです。また新入生の佐藤君も初めて同行してくれました。作業としては、環境祭りで使う押し花とパズル用の板を制作しました花を採取する際に佐藤君に嵐山を紹介しながら採取をしようということになり、まずカブトムシ牧場を紹介しました。3つあるカブトムシ牧場が冬にやったことが身を成してきたのか腐葉土ができていました。次にＢ地点の紹介をしました。Ｂ地点場まで来ると、新たな問題が浮き出してきました経路がボロボロだったのです。近いうちに経路の修理をしようという話になりました。Ｂ地点まできてせっかくなので嵐山の山頂まで行こうという話になりました。山頂まで歩いて行く途中、佐藤君と学校のことを話したりして親交を深めました。山頂まで登った風景をみて彼も喜んでいました。昼休みを経て、環境祭りで使う木材の調達にいそしみました。パズルをやろうと思っているため薄い板を調達しようと思い、木をある程度の長さで切りそれを縦に薄く切り板を作ろうとしましたが、うまくできませんでした。丸鋸や電動のこぎりも使いましたが、板にはなりませんでした。木工班から薄い板を頂き、それを使うことになりました。いつも助けていただき、ありがとうございます。このような事態が今後も起こると困るので、チェーンソー免許の習得やForest Classに技術を教えてもらうことを今のノバで考えています。（報告：望月健一）

地球環境部では先月の続きの電話線周りの間伐を続けています。今月は学芸大大学院の樋口先生とその大学院生が授業の一環で、また望星高校も３名の先生が多くの高校生を連れてきていただき総勢２０名で作業を行いました。私がこの４月にまた勤務校が変わった関係で、今年の中１

は私が関わったことのない子どもたちですが４名参加してくれています。そこで日々通っている中２以上が主体となって選木、受け口まで作るパターンで取り組みました。高校を卒業しているリーダーのチームは木の先端が電話線にかすめそうでしたが無事に伐倒できました。しかし、中３チームは受け口が思いの外大きくなってしまい、お化けが大きな口を開けているような姿になってしまいました。急きょ大人がチェーンソーでゆっくり倒すことになりました。念のためロープで引いていましたが少しずつ慎重に追い口を入れていくと受け口でない方向、まさかの脇で引いているロープの方に揺れ始めてしまいました。子どもたちを急いで避難させ、やはりそのロープの方向に倒すのが安全と判断しそのまま倒しました。かなりヒヤリとしましたが、これだけ大きな受け口だとその向きというよりもロープで引く方に力がかかり、そちらに倒れることを学びました。事なきを得ましたがまだまだ経験値の足りなさを実感しました。これからも慎重に安全に作業をしたいと思います。この日は計５本倒せました。（報告：宮村連理）

生命の森宣言・東京は頂上への歩道に巻き枯らした木が、掛り木になっていたので、安全のために処理しました。その後は同じ歩道の急斜面にある階段を補正しました。杭や横木を手ノコで加工するのに手間がかかりましたが、作業終了後丈夫にできたことが確認できて、みんな喜んでいたそうです。

森林整備班は川田晃さん、石井さん、岡田さん、小林さんの４名。今日は、沢山の初参加の学生さんが参加された。中学の学生さんから、大学院生まで幅広く２０名くらいの初参加組が整列した。昼食の野菜スープが余り気味だったので、残り物の運搬作業が気になったが、流石食べ盛りの若者の勢いは頂点だった。きれいに片付きました。学生さんありがとうございました。森林整備班は花畑の真ん中にある桐の大木の倒木と処理を行った。大きく張り出した幹は他の建造物に当たらない様に注意してうまく処理をすることができた。ついでに草刈も手伝った。桐の切株はまな板に使えるので、乾燥を兼ねて保管することにした。

水源までの経路を点検するため歩いたが、毎年の下草刈りが行き届いているおかげか、目立つ荒れは無かったが、来月当たり雨が来ると要草刈だ。この処晴天が続き気持ちの良い活動ができている。来週は定例総会で森の音楽会などが計画されている。実は、何も起こっていない時こそ注意が必要で安全講習や道具の整備を怠ら無いように喚起して作業を進めたいと思います。（報告：小林照夫）

五味　輝史（Forest Nova、副代表）

作業が進む嵐山の森

間伐に径路整備に作業が進んでいます

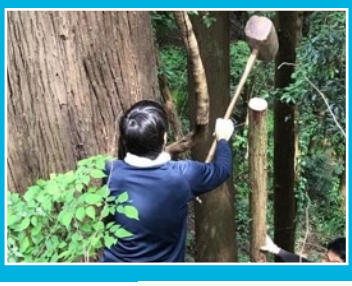
【若者の森づくり】地球環境部

今月は大学受験を控え、気合をいれるために久しぶりに森に参加してくれた「部員」の感想をご紹介します。次の参加時には大学合格の報告をお待ちしております。他の受験生のみんなもがんばってください！

相模湖嵐山での定例活動（4月16日）に参加したのは半年以上ぶりだろうか？新学期がスタートして地球環境部での活動も6年目に突入したものの高校生活との両立は難しく月一の活動ですらなかなか参加できない。

今日はまずこの時期にはかかせない「蜂トラップ」を制作し（日本酒・酢・砂糖を混ぜ2ℓボトルに2、3㎝入れる）仕掛け、あとは間伐作業に集中。若葉が清々しい季節なので、間伐作業もしていて気持ちいい。個人的には下草刈作業をすると“無”になれて好きだが、今の季節は鬱蒼と茂っておらず出番がなく残念。6年目の私もまだまだ間伐の受け口を作るのに試行錯誤で若干小さくしてしまいがちな点を反省。間伐作業は森を守るために「定期的に継続していくこと」が大切だ。今日は先日の環境省グッドライフアワード環境大臣賞受賞の流れか環境省の取材が入っていたが、将来的な環境保持のためにも然るべき省庁はぜひ我々のような活動を次世代に広めていくような社会システムを考慮してほしい。地球環境部がこれまで手掛けた区間は他の手つがずの区間よりも格段に整備が行き届いて森も活き活きしている事実を見ればその必然性は明白である。

渡邊　優唯（東京農大第一高等学校３年）



【若者の森づくり】ForesTo Class

ForesTo Classの二藤です。私事ながら4月から更なる技術向上のために静岡市の林業会社に転職致しました。第1日曜の定例活動には今後も変わらず参加していくつもりですので、よろしくお願いします。

さて今回のForesTo Classの活動は、萩山の仕上げ「直径80㎝の大木伐採」の準備をしました。その大木が立っている場所はちょうど斜面が急になっている所で、チェンソーの刃を安定した姿勢で木に入れていくためには足場がないため、丸太で簡易的な足場の設置が必要でした。現場で木を加工して杭を作成して打ち込み、それに木を麻紐でくくりつけるという作業を3人で行い何とか形にはなりましたが…グラグラとちょっと不安定…伐れれば問題なし！ということで次回は今回の足場を使用しての伐採です。ちょっと自分は不安なのでサポートにまわろうと思いますが…怪我だけには気をつけて安全に作業したいと思います。　二藤　政毅（ForesTo Class）

【若者の森づくり】Forest Nova

5月のゴールデンウイーク3連休中、渋谷DEどーもにforest nova☆で3日間参加しました1日目は参加人数が2人おらず、それをNHKの運営に報告したところNHKがアルバイトの方を2人用意してくれたので、その方たちと作業を行いました。初めてなのにしっかりやってくれてとても頼もしかったです。

今回はネイチャークラフトと称して木のキーホルダー作りを行いました。正直ノバには人はあまり来ないだろうと思って木材を少なめに用意していましたが1日目から参加者が続出してしまいキーホルダーの材とチェーンがなくなってしまいました。簡素な物でしたが、喜んでくれる子供が多くて安くても楽しんで貰える事が改めて認識できました。

2日目からチェーンを麻ひもで代用してネックレスにもできるようにしました。2日目も100人以上人が来て驚きです。また2日目から箸作りもできるようにしましたが箸材があっという間になくなってしまいました。橋材は穴が空いしまっている物も多く定期的な管理が必要だと感じました。

3日目はノバの主要メンバー全員集合でスムーズにブースが回せました。ドングリを装飾用に用意していたのですが、全部なくなってしまいました。秋は木ノ実集めを行おうと思います。また、人が少ないと色々不利だなと思いました。

来年は出るかどうかわからないですが、今回の失敗から色々学べるものがありましたのでそれを生かしたいです

望月　健一（Forest Nova）

【若者の森づくり】東海大望星高校

「初めて参加して」

晴天に恵まれ汗ばむ陽気の中、望星の森の森林整備の活動に参加しました。午前中はスズメバチトラップを作り仕掛けました。窓を開けたペットボトルに、酒、酢、砂糖を混ぜて入れたものです。午後は1本の杉の間伐を行いました。その後、嵐山を探索しながら登り、頂上で集合写真を撮り下山しました。普段鉄筋コンクリートの人工的な環境に囲まれ、自然に触れ合う機会が少ない私にとって、望星の森の豊かな美しい自然はとても新鮮であり、心もリフレッシュできました。また、素晴らしい環境での人々との交流を通して、活動する楽しさを知り、様々な事に前向きにチャレンジしていこうという気持ちが芽生えたように感じます。

桂　伸之介（東海大学付属望星高校）

「望星の森を振り返って…」

望星の森がある神奈川県相模原市嵐山は、人類が誕生した約500万年前に海底火山として形成された丹沢山地がプレートテクトニクスによって北上し、関東山地と衝突したこと

によって、誕生した。山の名前は、平安時代に活躍をした弘法大師(空海)が相模湖周辺を散策した際に、京都の地形や植生と似ていることから命名したという言い伝えが残っているほか、戦国時代に、武蔵の国を治めていた北条氏によって相模湖一帯も統治され、戦の状況を味方に伝える狼煙の打ち上げ場として利用していた。こうした歴史と由緒ある山にあるのが望星の森なのである。望星の森では、スギやヒノキ、コナラやクヌギ、トチノキなどの木が植生しており、それらの木々が放つマイナスイオンたっぷりの中で、伐採体験や、昆虫採集、植生散策などの体験をすることが出来る。私たちは常に、高層建築物やアスファルトに囲まれ、声なき圧迫感を感じながら生活をしている。こうした圧迫感ある都会を離れ、日頃の息抜きとして、望星の森に参加し、そこでしか味わえない貴重な体験を通じて、グループワークの大切さや自然の大切さ、自然の雄大さを、ぜひ皆さんに味わってほしいと感じる1日であった。

椿 友輔（東海大学付属望星高校教諭）

【事務局より】

積水ハウスマッチングプログラム贈呈式

５月１８日に同社神奈川中央支社にて贈呈式を行なっていただきました。CSR担当の社

員の方だけでなく同支社の方も多く参加していただき、本会からは代表理事の石村をはじめ４名で参加し、活動紹介プレゼンも行いました。１年間よろしくお願いいたします。

第１６期通常総会を行います

会員のみなさまには往復葉書にてご案内、出席の確認をさせていただいておりますが、６月第３日曜日、相模湖・嵐山定例活動後に県立相模湖交流センターにて通常総会を行います。昨年度活動報告、今年度活動計画以外にも定款、理事幹事、事務局等の変更など運営体制の変更についてもご承認いただきたい議事がございます。

総会後に交流会も予定しておりますのでお送りした葉書等で事務局まで出欠のご連絡をお願いいたします。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。